

英語科学生の自主学習に関する研究

鈴木 順和・大塚 稔

A Survey on Students' Independent Study Habits in the English Department

Toshikazu SUZUKI and Minoru OTSUKA

Summary

This survey was conducted to investigate students' independent study habits and activities after school. The questionnaire, which consisted of 18 items, was completed by 217 (68.2%) of 318 students in 1994.

The results were as follows :

1) Most students studied less than one hour a day at home, and used most of that time to do their Special subject assignments. There were few students who studied at other schools (language school, etc.) and most students spent a lot of time doing part time jobs after school.

2) There were few students who read books for more than one hour a day and a lot of students who seldom read books ; especially Western books. They, however, often watched TV ; the time spent watching TV was more than three times the time spent reading books. Students were interested in employment or hobbies, but scarcely interested in lessons other than English subjects.

3) Many students were satisfied with school life, but one third of the first year students were not satisfied. The main reasons for being satisfied with school life were friends and interesting/beneficial subjects, and the main reasons for being unsatisfied were a lack of beneficial/interesting subjects or good teachers.

These results suggest that there are few students who study independently and most students have not acquired independent study habits. The results also suggest that the quality of education and teachers are important for students to be satisfied with school.

英語科のカリキュラム改革と英語科学生の教育・指導に役立てるために、英語科学生に対して種々の調査をすることになった。最初に、英語検定試験の受験状況等を通して、学生の英語能力および英語能力の努力目標を調べることにした（鈴木ら、1994）。その結果、ほとんどの学生が何らかの英語検定試験を受けており、特に「英検（STEP）」はほぼ全員が受験していた。将来の受験希望についても同様で、ほぼ全員の学生が「英検」の受験を希望していた。本学の学生についてみると、英語検定試験に対する受験意欲や関心が高く、特に「英検」における受験率および受験希望が極めて高かった。中学時代からの学校での積極的な指導もあり、英語検定試験の王様とも言えるべき地位を占めていることが示された。

同時に、TOEFLやTOEICといった新しい英語検定試験に対する受験希望者が増えており、特に年齢が下がるにつれてTOEFLやTOEICに対する受験意欲や関心の高いことが示された。今後は英語検定試験というと「英検」といった時代ではなくなることが考えられる。こうした結果を踏まえると、学生の英語運用能力を高める教育の一環として、英検やTOEFLなどの英語検定試験のためのカリキュラムを積極的に導入することも検討されるべきといえる。なお、今では「Action English」という科目名で実際に「英検」やTOEFL等の指導が行われている。

本学の英語科のカリキュラムは一般教育科目と専門教育科目および教職に関する科目からなっており、この3領域の授業科目が英語科の教育の柱である。英語科のカリキュラム改革と学生の教育・指導の改善のためには、この3領域の授業科目について調べる必要があった。そこで次に、一般教育科目・専門教育科目および教職に関する科目の受講状況や受講理由、授業の理解度・習得度・満足度、受講態度および出席状況等が調べられた（鈴木ら、1997；1998）。

その結果、一般教育科目については特定科目に受講が集中し、開設時期や単位取得の容易さなどの理由で受講する傾向があった。関心度・有益度・必要性は科目間の差が大きく、全体的に授業に対する不満が強く、受講態度は受け身的で、主体的・積極的に学習する意欲が乏しく、授業の工夫の必要なことが示唆された（鈴木ら、1997）。それに対して専門教育科目や教職関連科目は、一般教育科目と比較すると、学習意欲や興味・関心、有益度・必要性、授業の理解度・習得度・満足度、受講態度・出席状況のいずれも高く、特に英語コミュニケーションと教職関連科目は評価が高かった。これらの科目の特徴は、相対的に受講者数が少なく、授業に対するさまざまな工夫がされていたことである。授業への興味・関心や理解度・満足度を高めるには、授業方法や授業内容、受講者数を工夫することが重要であることが示唆された。なお具体的な改善方法として、「視聴覚教材の利用」を高め、「宿題・レポートの提出」を求め、教室での「学生による発表や討論」や「学生同士の協同学習」の機会を多く設ける、といった提案がなされた（鈴木ら、1998）。

これまでは学内での学生の活動を中心に調査してきた。学生の教育・指導を充実させるためには学外の活動状況も調べる必要があるということで、最後に自主学習（自習）および学外での生活に関わる事項について調査を行うことにした。

方 法

調査対象者

本学英語科1年生147名、2年生171名の合計318名を対象に調査を行った。回収数は1年生が131

名で回収率89.1%，2年生が87名で回収率50.9%，合計では218名で回収率は68.6%であった。その内2年生で1名の無効回答票があり，実質回答数の合計は217名で実質回答率68.2%であった。

調査時期

1994年12月に調査を行った。

調査方法

資料1にあるような全部で18項目からなる調査用紙を用いて，各学年毎にほぼ全員出席する授業時間に調査を行った。調査はその時間の始めに行い，その場で調査用紙の配布・回収をした。調査用紙は学年だけを明記する無記名のアンケート形式であった。

結果と考察

調査項目は大きく4つの分野に分けられるので，分野毎に質問項目の順に分析していくことにする。ところで，1年生と2年生とで回収率に大きな開きがあるが，ここでは特に回収率に応じた分析を行わない。なお，下記の質問項目の番号は調査用紙に付けられた番号である。

表1 自習に関する質問の結果

質問項目	Q1-1*			Q1-2*			Q1-3		
	自習場所	1年生	2年生	自習目的	1年生	2年生	自習時間	1年生	2年生
内 容	自宅	86.3	90.7	宿題処理	94.7	83.7	全くしない	13.7	9.3
	短大図書館	26.7	22.1	予習・復習	14.5	12.8	30分未満	22.1	32.6
	県立図書館	0.0	2.3	資格取得	9.2	16.3	30分～1時間	38.2	40.7
	カルチャーセンター	0.0	0.0	教養	8.4	16.3	1～2時間	23.7	16.3
	その他	2.3	3.5	その他	2.3	5.8	2時間以上	2.3	1.2
質問項目	Q1-4*			Q1-5			Q1-6*		
	しない理由	1年生	2年生	自習分野	1年生	2年生	自習理由	1年生	2年生
内 容	やる気がない	70.6	62.5	一般教育科目	18.7	6.2	大切だ	32.3	20.7
	アルバイト	17.6	25.0	専門教育科目	74.8	87.7	興味がある	26.8	34.1
	特に必要ない	11.8	12.5	教職科目	6.5	6.2	課題がでる	33.1	39.0
	強制されない	41.2	0.0				単位取得	19.7	22.0
	その他	0.0	0.0				その他	0.8	1.2

注1) *複数回答が可能な質問項目

注2) 各数字の%の分母は有効回答者数（1年生：131名，2年生：86名）ないし実質有効回答者数である。

実質有効回答者数は各質問項目によって異なっている。以下の表（表2，表3，表4）も同様である。

1) 自習に関する質問

Q1-1 自習<自主学習>は主にどこでしていますか。

「自宅」と回答した者が、1年生で86%、2年生で91%と、ほとんどの学生が自宅で学習していることを示した。また、本学の図書館で勉強している学生が、1年生で27%、2年生で22%を占め、本学の図書館を比較的に利用していることが示された。本学図書館の蔵書数は9万冊を超えており（現在12万冊を超える）、短大の図書館としては充実した施設であることが関係していると思われる。なお、それ以外の場所での自習はほとんどみられていない。

Q1-2 自習の目的は何ですか。

「宿題」をするためと回答した者が、1年生で95%、2年生で84%を占め、主として学校で与えられる宿題をするために自宅等での勉強をしていることが示された。また、1年生では「予習・復習」が15%を占めていたが、それ以外はいずれも10%以下であった。それに対して、2年生では「予習・復習」以外に、「資格取得」や「教養のための読書」などが10%を超えており、多様な目的で学習していることが示された。

Q1-3 学科目に関わる自習時間は平均してどのくらいですか。

自習時間は、1年生・2年生共に「30分～1時間」と回答した者が最も多く、それぞれ38%と41%であった。また、30分未満の学生が1年生で36%、2年生で42%であり、3分の1以上の学生がほとんど自習をやっていないことが示された。2時間以上勉強する学生は、1年生・2年生共に1～2%とほとんどいず、大学生は中学生や高校生よりも自宅での学習をしていないことが窺えた。

Q1-4 Q1-3で1に回答した人に聞きます。自習に興味がないのはなぜですか。

学習しない理由としては、「やる気がないから」が最も多く、1年生で71%、2年生で63%を占め、次に1年生では「強制されないから」が41%を占め、2年生では「アルバイトが忙しいから」が25%を占めた。中学や高校での「強制的な学習」は大学生の自主的な学習意欲を奪い、強制されないと学習しないようになってきていることが窺える。しかし、2年生では「強制されないから」と回答した者はなく、大学生活を通して「強制されなくても学習をするもの」という認識が生まれてきているようである。

Q1-5 学科目の自習はどの分野にもっとも時間をかけていますか。

1年生・2年生共に「専門教育科目」と回答した者が最も多く、それぞれ75%と88%であった。「一般教育科目」は1年生が19%と比較的多いものに対して、2年生では6%であった。これは、一般教育を1年生時に多く受講していることだけではなく、2年生になると専門教育科目の重要性を認識してくることが関係していると思われる。

Q1-6 それはなぜですか。

1年生・2年生共に「課題が出されるから」と回答した者が最も多く、それぞれ33%と39%を占めた。次の理由としては、1年生では「大切だから」が挙げられ、2年生では「興味があるから」だった。1年生より2年生の方が、学習がより自発的な活動になっていることが窺える。

表2 学外活動に関する質問の結果

質問項目	Q2-1*			Q2-2			Q2-3*			Q2-4		
	ダブルスクール	1年生	2年生	通学日数	1年生	2年生	アルバイト	1年生	2年生	勤務日数	1年生	2年生
内容	スチューデント	0.0	0.0	毎日	1.6	0.0	店員	34.9	38.6	毎日	9.6	16.0
	英会話	7.7	8.3	週4・5日	3.2	1.2	レジ係	20.8	25.7	週4・5日	36.0	39.5
	公務員	0.0	0.0	土・日のみ	0.8	0.0	塾の講師	2.8	0.0	土・日のみ	5.6	6.2
	ワープロ・パソコン	1.5	2.4	週1日	5.6	8.3	家庭教師	1.9	1.4	週1日	8.0	9.9
	全く行かず	84.6	84.5	全く行かず	84.9	84.5	コンパニオン	12.3	18.6	全くやらず	24.8	17.3
	その他	6.9	4.8	その他	4.0	6.0	その他	31.1	21.4	その他	16.0	11.1

注1) *複数回答が可能な質問項目

2) 学外活動に関する質問

Q2-1 あなたは短大以外にどのような学校（教室）に通っていますか。

1年生・2年生共に「全く通っていない」が最も多く、共に85%を占めた。英会話を学校以外の場所で習っている学生もいるが、本学の学生については「ダブルスクール」に通う者はあまりいないことを示唆する。

Q2-2 各種学校には週に何日通っていますか。

通学日数についても同様に、1年生・2年生共に85%の学生は「全く通っていない」と答えている。通学している学生の内訳をみると、「週1日」と回答した学生は1年生で37%、2年生では54%であった。「週2日」と回答した者を加えると、1年生で58%、2年生で77%であり、大半の学生が週1～2日の通学であった。それに対して「週4日以上」と回答した学生は、1年生では32%を占めるが、2年生ではわずか8%に過ぎなかった。確かに1年生・2年生共に通学者は少ないが、通学者の内訳をみると1年生の方が頻繁に通学していることを示す。

Q2-3 あなたはどのようなアルバイトをしていますか。

1年生・2年生共に「店員」と答えた者が最も多く、それぞれ35%と39%であった。次に多かったのは「スーパー等のレジ係」で、1年生で21%、2年生で26%であった。塾の講師や家庭教師といった知的職業に就く者はほとんどいず、単純な労働に従事している者が多いことを示す。

Q2-4 アルバイトは一週間に何日していますか。

1年生・2年生共に「週4～5日」が最も多く、それぞれ3分の1を超え、週4日以上する学生が1年生で46%、2年生で56%と約半数を占めている。ダブルスクールと異なり、アルバイトにはかなりの時間を費やす学生が多いことを示す。「全くやらない」と回答した学生は、1年生が25%で、2年生が17%であった。学年が進むにつれてアルバイトをする学生が増え、アルバイトの頻度も高まることを示唆している。

表3 読書等に関する質問の結果

質問項目	Q3-1*			Q3-2			Q3-3		
	読書分野	1年生	2年生	読書時間	1年生	2年生	視聴時間	1年生	2年生
内容	フィクション	43.6	50.6	全く読まない	34.6	21.2	全く見ない	3.8	2.3
	ノンフィクション	23.1	31.6	30分未満	40.0	43.5	30分未満	6.9	12.8
	詩歌	5.1	11.4	30分～1時間	20.8	27.1	30分～1時間	23.7	22.1
	随筆	5.1	16.5	1～2時間	4.6	8.2	1～2時間	45.8	38.4
	洋書	15.4	8.9	2時間以上	0.0	0.0	2時間以上	19.8	24.4
	その他	12.0	16.5						
質問項目	Q3-4*			Q3-5					
	関心事	1年生	2年生	日常生活	1年生	2年生			
内容	英語の授業	16.4	15.5	充実している	6.9	12.8			
	その他の授業	0.8	1.2	比較的充実	43.1	60.5			
	友人関係	21.1	17.9	面白くない	33.1	15.1			
	恋愛と結婚	21.1	27.4	退屈	13.8	9.3			
	読書	7.8	11.9	その他	3.1	2.3			
	その他の趣味	25.8	32.1						
	就職	45.3	39.3						
	何ものなし	3.9	6.0						

注1) *複数回答が可能な質問項目

3) 読書等に関する質問

Q3-1 どのような書物を読んでいますか。

1年生・2年生共に「フィクション」と回答した者が最も多く、それぞれ44%と51%であった。次に多かったのは「ノンフィクション」で1年生が23%、2年生が32%であった。洋書と回答した者が1年生で15%、2年生で9%おり、学科の特徴を反映していると思われるが、次第に洋書を読まなくなる傾向が読み取れる。

Q3-2 平均読書時間（漫画、週刊誌類は除く）は1日何時間ぐらいですか。

1年生・2年生共に「30分未満」とする者が最も多く、それぞれ40%と44%であった。全く読まないとする者を加えると、1年生で75%、2年生で65%を占めており、大部分の学生がほとんど読書をしていないことを示す。なお、読書時間の平均をとると、1年生で19分、2年生で26分と1日に30分も読書をしていないことを示す。1時間以上読書をしている学生は、1年生で5%、2年生で8%であり、読書をする学生は稀な学生であることを示唆している。

Q3-3 テレビは1日どれくらい見ますか。

1年生・2年生共に「1～2時間」と回答した者が最も多く、それぞれ46%と38%であった。2時間以上と回答した者を加えると、1年生で66%、2年生で63%を占めており、大部分の学生が1時間以上のテレビ視聴をしていることを示す。視聴時間の平均をとると、1年生・2年生共に83分であった。これは読書時間と対照をなす結果で、テレビが現代生活に密着している表れと考えられる。

Q3-4 現在最も関心のあることは何ですか。

1年生・2年生共に「就職」と回答した者が最も多く、それぞれ45%と39%であった。次に高かったものは「趣味」で、以下「恋愛と結婚」「友人関係」の順になる。ところで、授業に対する関心は「英語の授業」が5番目にやっとでてくる状態である。「その他の授業」についての関心度は1年生・2年生共に約1%で、英語以外の授業はほとんど関心のないことを示す。学生は授業よりも就職や趣味に関心をもっていることを示唆する。

Q3-5 日々の生活をどのように思いますか。

1年生・2年生共に「比較的充実している」と回答した者が最も多く、それぞれ43%と61%であった。「充実している」と回答した者を加えると、1年生で50%、2年生で73%であった。しかし、「面白くない」とか「退屈だ」と回答した者が、1年生で47%、2年生で24%を占める。特に1年生は日常生活に不満をもつ者が多く、授業に対する関心の低さや、将来の具体的な職業が未決定であることなどが影響していることが考えられる。1年生より2年生の方が不満が少ないが、これは次第に学園生活が充実してくるだけでなく、回答率の低さも影響していると考えられる。2年生の回答者は、2年後期でも真面目に出席している学生であり、学校に適応し充実した学園生活を送っている可能性が高い。

表4 英語科に関する質問の結果

質問項目	Q4-1			Q4-2*			Q4-3*		
	入学後の満足度	1年生	2年生	満足理由	1年生	2年生	不満理由	1年生	2年生
内容	満足している	5.4	12.9	授業の興味	25.6	36.4	授業に興味なし	28.9	47.1
	比較的満足	56.2	64.7	授業の有益さ	24.4	25.8	授業の無益さ	55.6	70.6
	できれば来たくなかった	28.5	7.1	良い教師	24.4	13.6	英語が嫌い	13.3	17.6
	後悔している	6.2	12.9	英語が好きに	15.4	24.2	友人がいない	4.4	5.9
	その他	3.8	2.4	友人関係	41.0	42.4	クラブの少なさ	6.7	11.8
				クラブ活動	1.3	0.0	良い教師なし	4.4	23.5
				その他	5.1	3.0	その他	8.9	11.8

注1) *複数回答が可能な質問項目

4) 英語科に関する質問

Q4-1 英語科に来てどのように思っていますか。

1年生・2年生共に「比較的満足している」と回答した者が最も多く、それぞれ56%と65%を占めた。「満足している」と回答した者を加えると、1年生で62%、2年生で78%であった。しかし、「不満足」だと回答した者が、1年生で35%、2年生で20%いる。1年生では約3分の1の学生が不満を感じており、高校での進路指導の在り方や入学後の教育・指導の在り方に問題があることを窺わせる。ところで、2年生の不満の少なさは、次第に学校生活に満足してくるだけでなく、上述したように回答した学生の特性も影響していると考えられる。

Q4-2 Q4-1で1と2に回答した人に聞きます。それはなぜですか。

学科に満足している理由で最大のものは「友人」が挙げられ、1年生で41%、2年生で42%を占めた。1年生・2年生共に、2番目に高いのは「授業への興味」で、次が「授業の有益さ」であった。友人に恵まれたことが満足度の最大の理由というのは、学科の教育に対する評価が十分に高いとはいえないが、2番目および3番目に授業内容が挙げられているのは、授業に対する満足度が学生の満足感に大きな影響をもつことを示唆している。

Q4-3 Q4-1で3と4に回答した人に聞きます。それはなぜですか。

学科に不満が強いのは、1年生・2年生共に「授業が役に立たない」ことを挙げており、いずれも5割を超えていた。2番目に「授業への興味のなさ」が挙げられ、2年生では3番目に「良い教師がいない」ことが挙げられている。「良い教師との出会い」が1年生より2年生で低く、「良い教師がいない」と回答した割合が4%（1年生）から24%と2年生では飛躍的に増加している。不満の要因として授業の内容と教師の質が挙げられているが、学年が進むにつれて教師への不満が増えるのが一般的な傾向かどうかは明確ではない。

全体的考察

本研究は今から5年前に行われた調査結果であり、現在の学生の実態を反映しているかどうか定かではなくなっている。また、今回の調査は1年生と2年生で回収率に大きな開きがあり、単純な比較には問題があると思われる。なぜなら2年生の場合は、比較的真面目な学生の集団の結果になっている可能性がある。しかしながら、共通している内容もあると考えられ、授業を通して感じられる現在の学生の実態を考慮しながら全体的考察を行うことにする。

自主学習については、宿題をするためと回答したものが大部分であり、主体的に学習する習慣を身につけている学生の少ないことが窺える。しかも学習時間は1時間以下であり、高校時代までに自習をする習慣が十分に身につけていないことを示唆する。中学や高校時代の方が大学時代よりもよく勉強する傾向は、多くの大学生にみられる現象と思われるが、就学期間（2年間）を通して1時間以下とはあまりに少なすぎるといえよう。その背景に学習意欲の不足が窺えるが、デシ（Deci, E.L.,1971;1975）は外発的動機づけ（賞罰・競争等）が人間が本来もっている内発的動機づけ（興味・関心・知的好奇心等）を低下させる働きをもつ、と指摘している。中学や高校での「強制的な学習」が自主的な学習意欲を奪っている可能性がある。しかし、2年生になると「強制されない」から自習をしないという回答はなくなる。回答した学生が比較的真面目な学生であることを考慮し

でも、大学での教育を通して「強制されなくても学習する」という認識が生まれ、興味・関心や必要性から自主的に学習する傾向が高まっていることが考えられる。

学外活動については、本学の学生にはいわゆるダブルスクールといわれる学校に通って、就職や社会生活に必要な知識・技能を身につけようとする者がほとんどいないことを示す。むしろアルバイトに精を出していることが示されている。しかも、1年生より2年生の方が熱心にやっており、就職や授業がより切実になる2年生で8割以上がアルバイトを行い、しかも過半数が週4日以上であり、学習の妨げになっている可能性がある。比較的眞面目に出席している学生でさえアルバイトに熱心だということは、大学教育の在り方について学生も教員も考え直す必要があると思われる。

読書等については、大部分の学生がほとんど読書をしていないことを示す。それに対してテレビ視聴の時間は毎日1～2時間と回答しており、読書時間と視聴時間は好対照をなしている。しかしながら、1986年のNHKの視聴率調査では13～19歳で約2時間（無藤隆，1987より引用）、1995年のNHKの調査では1日平均約3時間という報告があり（日本放送協会，1995）、本学の学生が特に長くテレビを見ているとはいえないようである。

ところで、学生の現在の関心事は就職が中心で、それ以外では趣味や恋愛・結婚などである。授業に対する関心は低く、特に英語以外の授業にはほとんど関心がない。多くの学生はそうした生活を充実していると感じており、学生にとって大学は学習する場ではないことを示唆する。

学科に対する満足度については、2年生の方が授業の興味・関心が増し、満足度が高くなっていることを示すが、標本集団（学校に適応した眞面目な学生）の特性が影響している可能性はある。学校に満足する理由として、友人関係や授業内容が挙げられているのに対して、不満の理由としては授業内容と教師を挙げている。つまり、満足要因と不満要因は必ずしも一致していない。授業内容を改善し、教師が熱心に分かりやすく教えたとしても、学生が学校生活に満足するかどうかは分からない。しかしながら、学校生活への不満を解消するには、授業が役に立つという実感を得させることや興味・関心を湧かせる授業を行うことが必要であり、それには教員の資質や授業の工夫といったものが深く関係することを示唆している。

以上のように、本学での教育が学生の指導に効果を上げている面と、本学の教育を見直さなければならない面がある。カリキュラム改革や学生の教育・指導に対する反省を通して、常に学生の教育を充実させていくことが学校全体の責任といえよう。

付 記

本研究に協力して戴いた別府昌記教授・市崎一章講師・西田次郎先生および学生の皆さんに厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Deci, E. L. 1971 Effects of externally mediated rewards on intrinsic motivation. *Journal of Personality and Social Psychology*, **18**, 105-115.
- Deci, E. L. 1975 *Intrinsic motivation*. New York: Plenum Press. 安藤延男・石田梅男（訳）1980 内発的動機づけ 誠信書房
- 無藤隆（編） 1987 テレビと子どもの発達 東京大学出版会
- 日本放送協会（編） 1995 NHK年鑑 '95 日本放送出版協会
- 鈴木順和・大坪勝郎 1994 英語科学生の英語検定試験の受験状況に関する調査 宮崎女子短期大学紀要, **20**, 79-93.
- 鈴木順和・大坪勝郎・大塚稔 1997 英語科の授業内容に関する調査（Ⅰ）－一般教育科目について－ 宮崎女子短期大学紀要, **23**, 55-72.
- 鈴木順和・大坪勝郎・大塚稔 1998 英語科の授業内容に関する調査（Ⅱ）－専門教育・教職関連科目について－ 宮崎女子短期大学紀要, **24**, 131-159.

[1999年11月30日 受理]

(資 料 1)

質 問 項 目

次の質問項目について該当する番号に○印を付けてください。

Q1-1：自習＜自主学习＞は主にどこでしていますか。

- 1 自宅 2 短大の図書館 3 県立図書館 4 カルチャーセンター
5 その他（ ）

Q1-2：自習の目的は何ですか。

- 1 課題（宿題）処理のため 2 学科目の予習・復習 3 資格取得のため
4 教養のための読書 5 その他（ ）

Q1-3：学科目に関わる自習時間は平均してどのくらいですか。

- 1 全くしない 2 30分未満 3 30分－1時間 4 1－2時間
5 2時間以上

Q1-4：Q1-3で1に回答した人に聞きます。自習に興味を湧かないのはなぜですか。

- 1 やる気がないから 2 アルバイトで忙しいから
3 特に必要と感ぜないから 3 何も強制されないから
5 その他（ ）

Q1-5：学科目の自習はどの分野にもっとも時間をかけていますか。

- 1 一般教育科目 2 専門教育科目 3 教職科目

Q1-6：それはなぜですか。

- 1 大切なことだと思うから 2 興味があるから
3 課題が多く出されるから 4 単位が取れないから
5 その他（ ）

Q2-1：あなたは短大以外にどのような学校（教室）に通っていますか。

- 1 スチュワーデス養成学校 2 英会話学校 3 公務員養成学校
4 ワープロ・パソコン教室 5 全く通っていない 6 その他（ ）

Q2-2：各種学校には週に何日通っていますか。

- 1 毎日 2 週4, 5日 3 土日のみ 4 週1日
5 全く通っていない 6 その他（ ）

Q2-3：あなたはどのようなアルバイトをしていますか。

- 1 店員 2 レジ係 3 塾の講師 4 家庭教師 5 コンパニオン
6 その他（ ）

Q2-4：アルバイトは一週間に何日していますか。

- 1 毎日 2 週4, 5日 3 土日のみ 4 週1日
5 全く通っていない 6 その他（ ）

Q3-1：どのような書物を読んでいますか。

- 1 フィクション 2 ノンフィクション 3 詩歌 4 随筆 5 洋書
6 その他（ ）

Q3-2：平均読書時間（漫画，週刊誌類は除く）は1日何時間ぐらいですか。

- 1 全く読まない 2 30分未満 3 30分－1時間 4 1－2時間
5 2時間以上

Q3-3：テレビは1日どれくらい見ますか。

- 1 全く見ない 2 30分未満 3 30分－1時間 4 1－2時間
5 2時間以上

Q3-4：現在最も関心のあることは何ですか。

- 1 英語関係の授業 2 英語以外の授業 3 友人関係 4 恋愛と結婚
5 読書 6 その他の趣味 7 就職 8 何もない

Q3-5：日々の生活をどのように思いますか。

- 1 充実している 2 比較的充実している 3 何となく面白くない
4 退屈だ 5 その他（ ）

Q4-1：英語科に来てどのように思っていますか。

- 1 満足している 2 比較的満足している 3 できれば来なければよかった
4 来たことを後悔している 5 その他（ ）

Q4-2：Q4-1で1と2に回答した人に聞きます。それはなぜですか。

- 1 授業に興味があるから 2 授業が役にたつから
3 良い教師に出会えたから 4 英語が更に好きになったから
5 友人に恵まれたから 6 サークル<クラブ>活動に興味があるから
7 その他（ ）

Q4-3：Q4-1で3と4に回答した人に聞きます。それはなぜですか。

- 1 授業に興味が無いから 2 授業が役にたたないから
3 英語が嫌いになったから 4 友人がいないから
5 サークル<クラブ>が少ないから 6 良い教師がいないから
7 その他（ ）